

## 目 次

- (1) お知らせ
  - 南河内地域・河南町コミュニティ通訳ボランティア研修参加者募集
  - 通訳サポーター連絡会議・専門勉強会を開催します！
  - JICA ボランティアの募集
  - JICA グローバル教育コンクール 2012 応募作品大募集
- (2) 防災特集
  - 災害時の外国人住民支援について
  - 大阪府の災害時の外国人支援の取組み
  - 高等教育機関留学生担当者防災ワークショップを開催
- (3) 外国人情報コーナー
  - 在留カードへの切替え
- (4) OFIX 国際交流員のレポート
  - 初めてのアメリカ

## (1) お知らせ

## ■ 南河内地域・河南町コミュニティ通訳ボランティア研修参加者募集

当財団では地域の外国人の方々が、言葉の障壁を越えて安心して暮らせるように、市役所や学校などでのコミュニケーションの橋渡しをするコミュニティ通訳の養成

成を行っており、10 月は下記の要領で、河南町教育委員会と共催で、研修を開催します。11 月からは、とんだばやし国際交流協会での開催を予定しています。

【日程】 10月10日(水)&amp;10月12日(金)13:00-16:30

【場所】 河南町役場 4 階大会議室南

【プログラム概要】

コミュニティ通訳の心構え、教育、在留資格、  
通訳トレーニング、ロールプレイ等  
(※変更の可能性あり)

【募集締切】

2012 年 10 月 3 日 (水) 必着

(※応募が多数の場合、締切を早める可能性もあります)

その他、参加要件やお申込など、詳しくは

<http://www.ofix.or.jp/news.html#kanan>

をご確認ください。

## ■ 通訳サポーター連絡会議・専門勉強会を開催します！

OFIX主催のコミュニティ通訳研修を受講された方や、既に通訳としてOFIXから依頼を受け外国人支援をされておられる方々を対象にした連絡会議・専門勉強会を10月4日、11月9日、12月4日に予定しています。

通訳の方同士集り情報交換をして、モチベーションアップ、スキルアップをしましょう。

参加要件やお申込など、詳しくは

[http://www.ofix.or.jp/news.html#20120919\\_01](http://www.ofix.or.jp/news.html#20120919_01)

をご確認ください。

## ■ JICA ボランティアの募集

JICAボランティアとは独立行政法人国際協力機構(JICA)が実施する事業です。自身の技術や経験を活かして開発途上国の人々と共に生活し、相互理解を図りながら彼らの自助努

力を促進させる形で協力活動を行う、1年間または2年間の海外でのボランティアです。

## ◆ 応募資格

- ・青年海外協力隊、日系社会青年ボランティア  
20 歳～39 歳の日本国籍を持つ方
- ・シニア海外ボランティア、日系社会シニア・ボランティア  
40 歳～69 歳の日本国籍を持つ方

## ◆ 募集期間

2012 年 10 月 1 日 (月) ～11 月 5 日 (月)

## ◆ お問い合わせ先:

JICA 関西 ボランティア担当 TEL 078-261-0352  
JICA 国際協力推進員 (OFIX 内) TEL 06-6966-2400  
JICA ホームページアドレス: <http://www.jica.go.jp>

## ■ JICA グローバル教育コンクール 2012 応募作品大募集

海外で撮った写真・映像や、あなたの国際協力レポートを送ってください！

学校教育や各種団体での「グローバル教育」を実践する際

に、活用できる作品として応募してみませんか？ 皆さんが作品を通じて伝えたいことを、一言添えて応募してください。

◆募集締切:平成24年10月22日(月)

※郵便の場合、当日消印有効

◆応募部門:「写真・映像」部門/「国際協力レポート」部門

◆賞:個人賞・団体奨励賞

※JICA 理事長賞は約 1 週間の海外研修旅行

◆応募・お問い合わせ先

〒102-0082 東京都千代田区一番町 23-3  
日本生命一番町ビル 5 階

(公社) 青年海外協力協会内

「グローバル教育コンクール 2012」係

電話: 03-3556-5926 (直通)

※受付時間: 月曜日～金曜日 (9:30～17:30)

Eメール: [global-oubo@joca.or.jp](mailto:global-oubo@joca.or.jp)

ホームページアドレス:

[http://www.jica.go.jp/hiroba/menu/global\\_edu/index.html](http://www.jica.go.jp/hiroba/menu/global_edu/index.html)

## ■ 災害時の外国人住民支援について

(特活)多文化共生マネージャー全国協議会 事務局長 時光

### ◆災害時における外国人住民への支援の必要性

(特活)多文化共生マネージャー全国協議会(以下、NPO タブマネ)は、東日本大震災発生後すぐに、多言語による情報提供や電話相談、被災地への職員派遣などを通して、日本語が理解できない外国人住民への情報提供を行うために、「東北地方太平洋沖地震多言語支援センター」を、滋賀県大津市に立ち上げました。多文化共生マネージャー((財)自治体国際化協会認定)が中心となって広域連携によるこのような活動は、2007年に発生した新潟中越沖地震に続き、2度目となりました。

日本に住み、日常生活は日本語で生活している外国人住民でも、地震等の災害時には、「余震」や「避難所」等の災害時特有の言葉は、十分に理解できません。さらには、防災教育を受けていない、在留資格などといった外国人住民特有の問題によって、災害時における外国人住民は地域で孤立しやすく、時には情報を得られないことでパニックに陥ることもあることから、一定の支援が必要です。

東日本大震災発生の翌日、私は、NPO タブマネの同僚と一緒に被災地の仙台に向い、仙台市災害時多言語支援センターで、主に災害対策本部からの情報を多言語で外国人住民に提供する活動に従事しました。あれから、一年半が経過しましたが、自分の中で、「あの活動でよかったのか?」いまだに自問自答しています。被災地で活動に携わった一人として、災害時の外国人住民支援の難しさや地域での取組みについて私見を述べたいと思います。



(仙台市災害時多言語支援センターのスタッフたち)

### ◆外国人住民へ情報提供する側として大きな葛藤

皆さんは、今回の震災直後、海外のメディアを見られたことがあるでしょうか。被災状況、特に原発に関して、海外のメディアは日本政府とぜんぜん違う認識をしていました。どちらかというと日本列島の半分以上が放射線で汚染されているような報道が多く海外で流れていました。

忘れもしないのですが、仙台市の避難所で出会った一人の中国の方に「先ほど海外にいる家族から電話がかかってきましたが、日本政府とぜんぜん違うことを言っています。一体どっちを信じればいいんですか。」と戸惑った顔で率直な疑問をぶつけてきました。

戸惑いを感じたのは、被災地の外国人住民だけではなく、

多言語支援センタースタッフの私も同じでした。被災状況について世界各国の認識が分かれている状況の中、私たち情報提供する側としてどの情報を信じ、(翻訳して)外国人住民に発信すればよいか、心の中で大きな葛藤がありました。災害時多言語支援センター内で話し合った結果、日本政府の報道を忠実に訳して情報を発信しようということになりました。ところで、日本政府の情報を多言語で外国人住民向けに発信しても、相手に完全に安心してもらえるだろうかと皮膚感覚で疑問を感じました。

災害時において、情報源の確保、情報の正確性は大きな課題です。そんな中で、国境を跨る外国人住民への情報提供は一層難しいことであると現場で感じさせられました。

### ◆地域の外国人住民は防災の担い手になれます

「災害時の外国人住民支援」という言葉はよく耳にします。言葉通り、地域で社会的少数者の一つのグループである外国人住民を対象とした取組みが少しずつ、確実に前に進んでいるように感じています。この点に関しては、外国人住民として大いに感謝します。一方、言葉が先に走っていて、外国人住民=災害時要援護者と考えている担当者、関係者、市民ボランティアも少なくありません。確かに防災知識、日本語力に関して言えば、外国人住民は弱い立場にあります。しかし、地域に住む多くの外国人住民は日本生活が長く、日本語はもちろん、若い世代が多く、平常時よりその方たちに防災知識を学んでいただければ災害時に周りの日本人住民を助けられる存在に十分になりえるのではないのでしょうか。

もう一つ注目していただきたいのが、一部の外国人住民に見られる当事者の意識変化です。自分自身の言語能力、経験を活かし、同国人を助けたい、日本社会に貢献したいとの思いを持っている外国人住民が地域で確実に増えています。実際、私どもの団体が中心になって立ち上げ・運営した「東北地方太平洋沖地震多言語支援センター」で設置された電話相談ホットラインを通して、多くの外国人住民からボランティア活動がしたいとの電話をいただきました。外国人住民の意識変化を実感できるうれしいことでした。外国人住民の意識変化は、仙台市の災害時多言語支援センターにおいても同様でした。地域の留学生が自らボランティアに参加し、貴重な戦力として一緒に活動に参加しました。

私どもNPO タブマネ、多文化共生マネージャーが外国人住民を防災の担い手として巻き込み、市主催の防災訓練にただ参加するのではなく、炊き出しを作って配膳する、多言語支援センターのボランティアとして訓練に参加する、さらには外国人住民が自ら避難所を運営する訓練を地域で広げていきます。外国人住民=災害時要援護者ではなく、防災の担い手になれるという新たな発想で皆さんのそれぞれの現場において事業展開をしていただければありがたいです。そして、私どもの団体、NPO タブマネが引き続き災害時の取組みを進めていきます。

## ■ OFIX の災害時外国人支援の取組み

東日本大震災発生から、1年半が経ちました。

被害にあわれた方々に心からお見舞い申し上げますとともに、一日も早く平穏な日々を回復できるようお祈り申し上げます。

大阪府でも、9月5日に南海トラフ巨大地震を想定した880万人訓練が実施されました。OFIXでもこの日は携帯電話の緊急地震速報を受け、机の下に避難したり、設置運営している大阪府堺留学生会館オリオン寮の被災確認の連絡を行ったり、地震に備えた行動を確認しました。

実際に災害が発生した場合、被災地として外国人への支援を行うことが求められますが、府内の被害が甚大な場合には、他地域からの支援受入が不可欠になってきます。このため、本年度は地域や外国人府民を対象とした取り組みのほか、関係機関や広域での連携体制の整備を進めるための取り組みにも力を入れています。

〈広域連携〉

・近畿の地域国際化協会間において、災害発生時のスタッフや通訳・翻訳者の派遣の協定を締結しており、災害発生時に多言語支援センターを設置する場合の人材確保のための協力関係を築いています。また、広域災害に備え、近畿以外の全

国の各ブロックの地域国際化協会連絡協議会との連携も進めます。

〈地域との連携〉

・市町村や市町村国際交流協会と共催で、地域の外国人市民、通訳ボランティア向けの防災訓練を実施し、災害発生時の安否確認や円滑な避難所運営のための取り組みを進めています。

〈行政機関等との連携〉

・大阪府との連携はもちろん、在関西総領事館との防災ワークショップの実施など、定期的に関係機関と災害に係る意見交換を実施しています。

〈教育機関との連携〉

・東日本大震災の被災大学の留学生支援担当者を講師に招いたワークショップ（下記参照）や大学と共催の防災訓練の実施など、留学生の在籍する高等教育機関との連携を進めています。

※ 10月27日（土）午前、OFIXと大阪市立大学の共催で、大阪府堺留学生会館オリオン寮と大阪市立大学留学生宿舍合同の、留学生向け防災訓練を実施します。オリオン寮での訓練については、府内学校関係者の方の見学が可能です。ご希望の方はOFIXまでお気軽にお問い合わせください。

## ■ 高等教育機関留学生担当者防災ワークショップを開催

災害時の留学生支援体制を考えるため、府内の高等教育機関留学生担当者にお集まりいただき、東日本大震災時に留学生支援に取り組みされた、福島大学 国際交流センター 特任専門員の マクマイケル・ウィリアム氏 を講師にお招きし、直接、体験談をお聞きし、その後、府内の留学生支援の現状や課題について話し合うワークショップを9月14日（金）大阪府堺留学生会館オリオン寮において開催いたしました。当日は、大学や専修学校の担当者の方を初め、国際教育関係機関の方、行政や国際交流団体等幅広い分野の方々が集まってくれました。

講師からは、震災当時の体験談を映像を駆使し、大変具体的に分かりやすくお話しいただきました。

『福島大学の留学生数は178名で、国際交流会館（留学生専用宿舎）に50名程度が滞在していたが、震災直後、市内に部屋を借りている留学生も情報を求め会館に集まって来て、雑魚寝状態であった』『その後、放射能を恐れ全員が避難して行ったため、安否確認は人海戦術で留学生178名の確認に2週間も要した』『その際、留学生の民間住宅あっ旋を行っていた大学生協との連携が有効であった』『母国からの指示などで、7割以上の留学生が国外へ避難し、最後は入国管理事務所の出国情報で確認した』など当時の生々しい体験の具体的な話があり、『留学生のPCメールアドレスを登録させる必要がある』『フェイスブックやツイッターが情報発信や収集

に有効である』などの経験を踏まえた課題提起もあり、参加者からは大変有意義な話が聞けたと大好評でした。

後半の意見交換会では、参加者が3グループに分かれ、震災発生後1週間以内にまず対応すべき項目は何かを各自4項目書き出し、それをテーマにグループディスカッションをしてもらい、マクマイケル講師に引き続きアドバイスをお願いしました。

幅広い分野の方々が参加されていたことから、様々な視点からの意見を聞くことができ、広い視野での意見交換が出来たと好評でした。

OFIXでは、今後ともこのような取り組みを続け、留学生を初めとする外国人の受入態勢整備のため

関係機関と連携して参りたいと考えていますので、ご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。



